

東田小学校学校運営協議会令和4年(2022年)度

2023年(令和5年)3月4日(土) 会長挨拶 22-RO-9

梅の花が満開で本当に春めいて参りました。丸3年コロナ禍の期間、外出自粛のため自宅蟄居(ちつきよ)生活を余儀なくされ、読書によって閉塞感から抜け出すことができ少しばかり救われたようです。しかし反面、この期間において情報通信技術ITC;パソコン、スマートフォン、オンライン会議、会合や連絡、打ち合わせ、授業などデジタル手段による知識と情報の入手方法が急速に進展し普及しました。そのような成果として先月2月18日(土)の3年2組の授業参観において知ることができました。授業【独楽の話】で3~4人1組のグループがパソコンを利用して【日本の木独楽、鉄独楽、エジプトの独楽】の3種類についてパソコン画面においてどれが木独楽であるか当てるクイズ方式の学習中でした。

授業参観中の私がパソコン操作担当の女子学童に「鉄独楽とは何か?」と質問すると即座にパソコン操作検索して「これが鉄独楽です」とほほ笑んで回答したのです。そのパソコンの鮮やかな操作の迅速性と正確性には全く感嘆するばかりでした。

このようにしてこの3年間、パソコンのデジタル手段による知識の入手方法が小学校全体に急速に普及したことは新しい【進歩】あるいは【進化】の画期かもしれない。

ここで改めてアナログとデジタル手段による知識の習得方法を比較することにします。

改めて従来からのアナログ手段による知識の習得の通常手段の代表は書物;本(教科書、絵本、理科、社会、国語、地理、歴史などの児童図書)であります。授業では美術、書道はまさにアナログの世界です。

一般的には本、書物は本屋(一般書店、古書店)、学校の図書館、地域の公共図書館によって選別され利用され読まれます。本を利用する場合、人は書棚に陳列された背表紙あるいは表紙の面を眺め探しながら推薦あるいは自分で選択する。気に入った本を取り出してまずページをめくり、目次をザッと読む。そしてその本にすると決めて読み始める。途中まで読んだり、拾い読みしたり、完読したり様々です。書棚に並んでいる色々な本が、学童に読んでもらいたいと興味ある本、好きな本、知らない世界の本などが微笑みかけて来るのです。新しい知識、古い知識などが選び抜かれた本、あるいは購入した本などに沢山掲載されています。図書館は個人とは異なり、多種類、長期間にわたり本を収集し蓄積して読者に提供し続けてくれるのです。そして開架式の書棚から思いがけない本を選び出すことの幸運にも恵まれます。時間の経過、年齢とともに読者は各自が選んで遭遇した本によって新しい知識が更新され続けるのです。デジタル手段による知識の習得の場合は自分の方から直接的に知りたい知識事項を指名検索してピンポイントにて引き出します。迅速性と簡便性は優れていますがその知識量は少なく狭くなります。図書館の本の利用によって学童は知識習得の機会が別な新鮮な世界を感じ取ることができる。一人一冊図書館から借りてきて各自感想を語り合ったり発表したり、本の交換をしたりしてみてもはどうだろうか?読書という習慣は人生ある限り継続するものです。 小原理一郎 以上